

立山春スキー

11期 井上 史三

「立山春スキーのルーツ・・・」

残雪の立山に登り始めたのは今から20数年前の4月末、妻と私は室堂から一の越を経て浄土山頂に。その一步手前で写っている黄色ジャケットが私である。後方には櫓の天辺と思しきものが映っている。後日それがなんであるかは分かったのだが、その時はなにやら“医王山の展望台みたいだな”とだけ思ったものだ。それを横目に浄土山西面の急斜面を、伊豫さんから譲り受けた医王山のかんじきで駆け下りた自分の姿は今でも鮮明に脳裏に焼き付いている。必死に私の後を追った妻はさぞかし生きた心地がしなかつただろう、と思ったのだが、全く記憶にないと言う。後年その斜面を尻セードしたことの方がよく覚えているようだ。



下りて着いたのは、室堂山の緩斜面。上から見てここなら滑落しても大丈夫だろうと思っていた地点だ。

かんじきで下りながら、スキーならさぞかし爽快だろうと、思ったものだ。

その後、同期の御山谷春スキーの話などは聞いてはいたが、なかなか行く機会はなかった。

「古希立山春スキー」

それから20年後の2016年5月12日、スキーをA字に背負って室堂山目指して登るのは私である。(小山氏撮影)



今年2017年5月16日、9期谷道氏と11期小山氏と3人で春スキーを楽しんだ。

下は、ホテル立山目がけて滑り降りている写真である。(小山氏撮影VTRより)



翌17日、妻と室堂平散策に行き、前日のシュプールが白く輝いているのを目にして、思わずシャッターを切った次第。

左から谷道氏、私、小山氏の3本のシュプールである。



かくして、第5回(2002年)の野沢に参加し、再度スキーに目覚めた私は、諸氏と共に今は立山春スキーを楽しんでいる。

これからも最強の友である“芍薬甘草湯”と共に・・・